

3年ぶりの対面実施で加盟団体からも活発な活動報告

北九社保協 第27回定期総会を開催



10月28日(土)に北九社保協第27回定期総会を開催しました。コロナ感染発症から対面での集会等

開会の挨拶をする高木会長 自粛しこの間、総会は文書決議としてきましたが現在、感染状況が小康状態にあることから3年ぶりに対面での開催となりました。当日は他団体の総会や行事も重なり参加者数が心配されましたが、加盟民主団体のご尽力もあり40名の参加がありました。県社保協からも連帯のメッセージを頂いた1部の定期総会では「コロナ禍で社保活動が制限される中、社会的弱者に寄り添う活動を中心に取り組んできた総括報告と長引くコロナ禍に物価高騰の今こそ、私たちの英知を結集した旺盛な活動でいのちと暮らしを守る社会保障の充実・発展をめざす方針が提起され、満場の拍手で、確認がされました。また、加盟団体からは生健会より「生活保護を取り巻く諸課題への対応」、民主商工会から「インボイス制度反対・中止への運動」健和会は「マイナ保険証問題および現行保険証存続への取り組み」そして新婦人は「学校給食を考える会立ち上げ」など、この間の活動報告が詳細に報告されました。最後に新役員体制についても確認がされました。

2部の学習講演では元北九州第一法律事務所の弁護士でいのとり裁判にも携わっておられ、現在は筑



紫女学園大学で教鞭をとる高木佳世子先生をお招きし「生活保護における最近の状況と問題」と題して、「コロナ禍以前からの生活困難状況、コロナ禍で貧困率が上昇するも増えない生活保護利用、捕捉率や生保バッシングの問題、引き下げられてきた生活保護規準、唯一運動の成果が結実した扶養照会、一方で生保制度下での車所有や高等教育へのハードル、また自治体窓口の課題」など1時間の短い時間ではありましたが、多岐に渡る内容をコンパクトにまとめてお話をして頂きました。今はリモートが主流



閉会の挨拶をする岩下副会長

となってそれはそれで利点もありますが、久しぶりに一同が会して盛会のうちに終えた総会は新鮮でたいへんよかったですと感じました。



生健会北九州協議会の八記さん



民主商工会小倉支部の森さん



民医連健和会の佐藤さん



新婦人小倉南支部の江藤さん